

先週の礼拝メッセージ(2021年11月7日) ベン牧師

「人知を超えた愛」 エフェソの信徒への手紙 3:18、19

ここでは、神の愛は自分1人だけで知るというものではなく、すべての聖徒(クリスチャン)とともに知るのだと言っています。

もちろん大自然の営みの中に神の愛を見ることはできますが、それ以上に、神の愛は人間関係の中で表し、知るものだと言うのです。

人間の愛はもろく、壊れやすいものであるということは、夫婦の不和や友の裏切りなどの話を聞いても分かります。

では、教会は聖なる場所で一切の問題は起きないのかというと、残念ながらそうではありません。だからこそ、パウロは16-17節で、イエス様があなたがたの心をきよめて下さり、あなたがたの心の中心に住んで下さるようにとエフェソ教会の人々のために祈っているのです。

そして、その祈りは今日の箇所へと続き、あなたがたが他の聖徒たちとともに、キリストの愛を知っていくようにと祈るのです。

自分が中心だとしたら、愛することも自分中心になってしまいます。感情の起伏に左右もされ、自分の非を認めようとしません。聖書はそれを罪と呼んでいます。

教会は聖人君子の集まりではなく、この罪をイエス様の十字架によって赦された人たちの集まりです。だからこそ、教会の中で共に祈り合い、助け合って神の愛を実践していくのです。私たちがかけのある罪人だからこそ、互いに赦し合うという聖書の言葉を実践できるのです。愛し合い助け合うことも、愛や助けを必要としている人がいるからこそできることです。

もちろん試練は喜ばしいものではありませんが、教会は、その中で赦す

こと赦されること、愛すること愛されること、助けること助けられることを学び、神の愛を実践していくのです。

クリスチャンにとって試練は洞窟ではなく、トンネルです。奥に行けば行くほど出口が近づくからです。



また、「人の知識をはるかに超えるこの愛を知るように」と19節に記されています。

人の知識を超えているものをどうして知ることができるのでしょうか。

それは、愛というものは決して知識で学ぶもの、学べるものではないからです。愛は、誰かに愛されるという経験を通して初めて知るものなのです。生い立ちなどで、愛を受けずに育った人であっても、教会に来て、神様に愛されていることを知り、変えられた人を私は何人も知っています。どんな過去があっても、欠点や失敗があっても、神様は私たちが愛し続けてくださっています。永遠の愛をもって愛してくださっています。

パウロは、エフェソ教会の人々が、「すべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るように」と祈っています。

私たちも、神の愛を体験によって知ることによって、教会の兄弟姉妹と共に愛を実践し、人を愛するものへと変えられていきましょう。イエス様ご自身が、こんな欠けだらけの私たちが七度を七十倍するまで赦し、愛し抜いてくださったのですから。

